

JVCKENWOOD

第10期中間期(第2四半期)のご報告

2017.4.1 ▶ 2017.9.30

株式会社 JVCケンウッド

証券コード：6632



代表取締役
兼 社長執行役員
最高経営責任者 (CEO)

辻 孝夫

当社は、平成29年9月30日をもって第10期中間期（第2四半期連結累計期間）を終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における売上高は、前年同期比で約61億円増（4.5%増収）となる1,424億68百万円となりました。

OEM事業が大幅な販売増により増収となったことなどから、オートモーティブ分野は大幅な増収となりました。一方、業務用システム事業が減収となったことなどから、パブリックサービス分野は減収となりました。また、民生用ビデオカメラやAVアクセサリーの販売減などによりメディア事業が減収となったことから、メディアサービス分野は減収となりました。

当第2四半期連結累計期間における営業利益は、前年同期比で約18億円増となる11億26百万円となり、赤字から黒字に転換しました。

OEM事業が大幅な増益により黒字化したことから、オートモーティブ分野は大幅な増益となりました。また、無線システム事業および業務用システム事業が減益となったことから、パブリックサービス分野は損失が拡大しました。メディアサービス分野は減収となったものの、業務用ビデオカメラや映像デバイスの損失が縮小したことなどから、分野全体では損失が縮小しました。

当第2四半期連結累計期間における経常利益は、営業利益が大幅に増加したことなどから、前年同期比で約21億円増となる6億52百万円となり、赤字から黒字に転換しました。

当第2四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益は、経常利益の増加に加え、特別損益が改善したことなどから、前年同期比で約55億円縮小し2億88百万円の損失となりました。

Offering Cutting-edge Solutions

～「尖った」ソリューション・商材を提供～

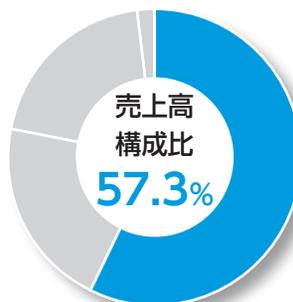
当社は技術立脚型企業として、当社グループが長年培ってきた映像・音響・通信に関する優れた技術やノウハウを持っています。これらをヘルスケアなど、今後有望、かつ、社会的意義のある、新たな領域に投入してイノベーションを起こすことを目指します。そして、お客様の課題を先取りし、解決するパートナーとして「尖った」ソリューションを継続的に提供し、企業ビジョンである「感動と安心を世界の人々へ」を実現してまいります。

中間配当について

当社では、安定的に利益還元を行うこと、また、今後の成長に向けて経営資源を確保することが経営上の最重要課題の一つと考え、収益力および財務状況を総合的に考慮して剰余金の配当およびその他処分などを決定することとしております。

この方針に基づき、第10期中間配当につきましては、内部留保等のその他の利益配分の必要性に鑑み、平成29年10月31日開催の取締役会で配当を見送ることを決議いたしました。

オートモーティブ分野



売上高

816億82百万円

(前年同期比20.4%増)

営業利益

31億4百万円

(前年同期比約29億円増)

市販事業は、海外市場で米州の販売減の影響を受けたものの、国内市場で「彩速ナビ」やドライブレコーダーの販売が好調に推移したことなどから、事業全体ではほぼ前年同期並みの実績となりました。

OEM事業は、大幅な販売増により増収となりました。

市販事業は、米州の販売減の影響などから減益となりました。

OEM事業は、大幅な増収により大幅増益となり、前年同期の赤字から黒字に転換しました。

パブリックサービス分野



売上高

297億16百万円

(前年同期比13.1%減)

営業利益

△17億10百万円

(前年同期比約11億円減)

無線システム事業は、米国無線子会社の販売が回復したものの、アジア・中国市場における業務用無線機器の販売減の影響を受けたことなどから、減収となりました。

株式会社JVCケンウッド・公共産業システムを中心に展開する業務用システム事業は、前期にカードプリンター事業を売却した影響などから、減収となりました。

無線システム事業は、上記の減収の影響などから、損失が拡大しました。

業務用システム事業は、上記の減収の影響などから、損失が拡大しました。

メディアサービス分野



売上高

285億46百万円

(前年同期比11.3%減)

営業利益

△2億56百万円

(前年同期比約2億円改善)

メディア事業は、民生用ビデオカメラやAVアクセサリーの販売減の影響などから、減収となりました。

エンタテインメント事業は、受託の販売減の影響などから、減収となりました。

メディア事業は、上記の減収の影響があったものの、業務用ビデオカメラや映像デバイスの損失が縮小したことなどから、事業全体では損失が縮小しました。

エンタテインメント事業は、減収減益となりました。

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表 当第2四半期連結会計期間(平成29年9月30日)

科目	金額(百万円)
資産の部	
流動資産	155,707
現金及び預金	43,597
受取手形及び売掛金	52,395
商品及び製品	28,787
仕掛品	5,827
原材料及び貯蔵品	12,996
繰延税金資産	3,777
その他	9,609
貸倒引当金	△ 1,285
固定資産	111,398
有形固定資産	50,936
建物及び構築物(純額)	12,757
機械装置及び運搬具(純額)	8,107
工具、器具及び備品(純額)	6,143
土地	22,109
建設仮勘定	1,818
無形固定資産	17,779
のれん	3,779
ソフトウェア	11,457
その他	2,542
投資その他の資産	42,682
投資有価証券	9,055
退職給付に係る資産	25,447
繰延税金資産	5,435
その他	3,303
貸倒引当金	△ 558
資産合計	267,105

四半期連結損益計算書(要旨)

当第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)

科目	金額(百万円)
売上高	142,468
売上原価	105,320
売上総利益	37,148
販売費及び一般管理費	36,021
営業利益	1,126
営業外収益	651
営業外費用	1,125
経常利益	652
特別利益	840
特別損失	49
税金等調整前四半期純利益	1,443
法人税、住民税及び事業税	1,494
法人税等調整額	△ 256
法人税等合計	1,237
四半期純利益	205
非支配株主に帰属する四半期純利益	493
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 288

科目	金額(百万円)
負債の部	
流動負債	94,355
支払手形及び買掛金	35,748
短期借入金	5,935
1年内返済予定の長期借入金	9,082
未払金	8,786
未払費用	19,047
未払法人税等	2,225
製品保証引当金	1,476
返品調整引当金	1,225
受注損失引当金	1,398
その他	9,429
固定負債	109,004
長期借入金	54,530
再評価に係る繰延税金負債	1,516
繰延税金負債	11,392
退職給付に係る負債	38,395
その他	3,169
負債合計	203,359
純資産の部	
株主資本	72,275
資本金	10,000
資本剰余金	37,596
利益剰余金	24,716
自己株式	△ 37
その他の包括利益累計額	△ 14,292
その他有価証券評価差額金	1,742
繰延ヘッジ損益	△ 169
土地再評価差額金	3,442
為替換算調整勘定	△ 13,428
退職給付に係る調整累計額	△ 5,880
非支配株主持分	5,762
純資産合計	63,745
負債純資産合計	267,105

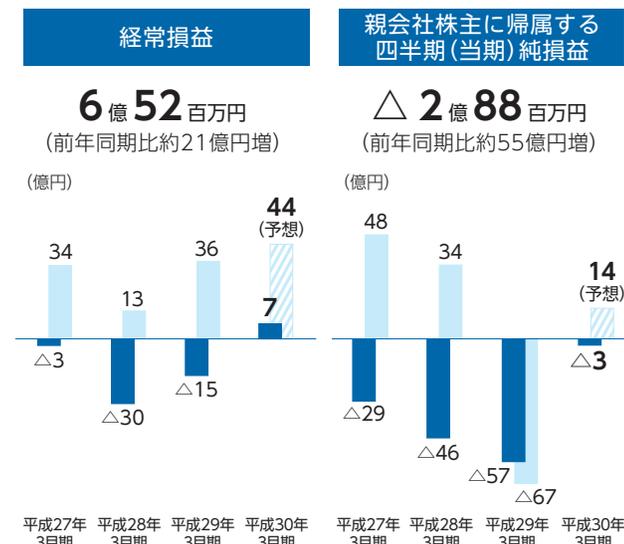
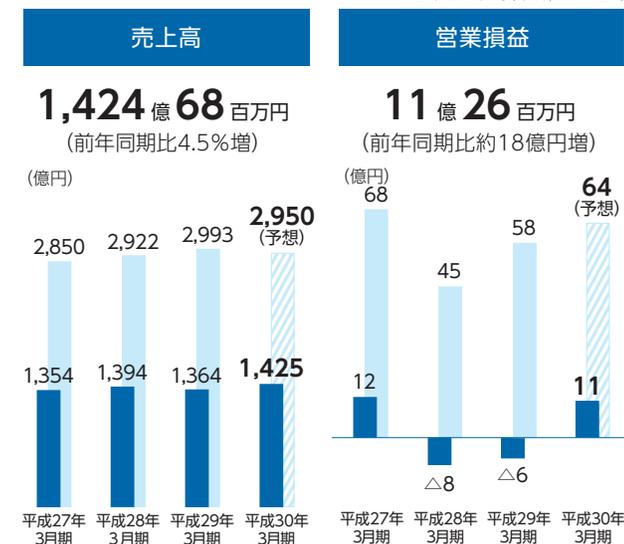
四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

当第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)

科目	金額(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,502
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,007
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,594
現金及び現金同等物に係る換算差額	785
現金及び現金同等物の増減額	2,685
現金及び現金同等物の期首残高	40,681
現金及び現金同等物の四半期末残高	43,367

連結決算ハイライト

■第2四半期(累計) / □通期



損益為替レート

	第1四半期	第2四半期
当期	米ドル	約111円
	ユーロ	約130円
前期(参考)	米ドル	約108円
	ユーロ	約114円

これまでの感謝を、これからの勇気に。

JVCKENWOOD Anniversary Site

旧株式会社ケンウッド 旧日本ビクター株式会社



旧株式会社ケンウッド 1955年発売 AMチューナー「HF-1」
旧日本ビクター株式会社 1930年発売 蓄音器「ビクトロラ」J1-80

Message

これまでの感謝を、これからの勇気に。

2011年10月。旧日本ビクター株式会社と旧株式会社ケンウッドが合併し、株式会社JVCケンウッドとして生まれ変わりました。

蓄音器の製造からはじまった旧日本ビクター株式会社は

2017年9月13日で設立90周年。

ラジオの修理、組み立て販売からはじまった旧株式会社ケンウッドは

2016年12月21日に設立70周年を迎えました。

今の私たちがあるのは前身会社の設立からこれまでの間、

多くのお客さまや、お取引先さま、諸先輩方に支えていただいたから。

私たちの製品を愛してくださった皆さまのおかげで私たちはここにいます。

設立90周年および70周年をきっかけに、

長い年月をかけて育み、ご愛顧いただいていたブランドを

未来へ繋いでいくことが私たちの使命だと、あらためて感じています。

皆さまからいただいた信頼に応えるため、

感謝の気持ちを勇気に変え、私たちは、前進していきます。

その第一歩がブランドの再定義です。

「誇りと探究心を復活させ、新たな時代をつくる」Victor。

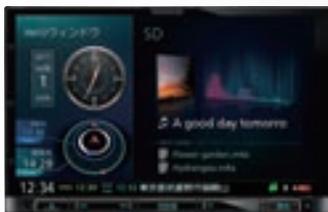
「ひとの感覚を高めるイメージーション」を発揮するJVC。

「限界を超越する鋭敏さ」を備えたKENWOOD。

これからの私たちに、どうぞご期待ください。



前も後ろも高画質録画。 ナビ連携型ドライブレコーダーで安心・安全。



MDV-M805L



MDV-M705

MDV-M705W

彩速

Sai-Soku

Hi-Res AUDIO

ハイレゾ対応 / 専用ドライブレコーダー連携
地上デジタルTVチューナー / Bluetooth® 内蔵
DVD/USB/SD AVナビゲーションシステム

- ・「高画質」と「高速レスポンス」を生み出す彩速テクノロジー
- ・ハイレゾ音源に対応した充実のオーディオ機能
- ・よりスマートに、より快適に高度なナビゲーション機能をさらに拡張

スマート連携



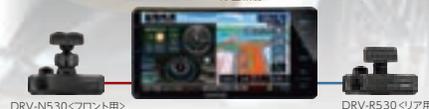
DRV-N530<フロント用>

DRV-R530<リア用>

Full Hi-Vision
1920x1080

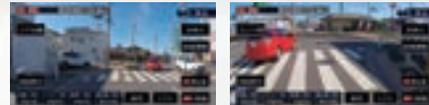
ナビ連携型ドライブレコーダー

ダブル録画機能



DRV-N530<フロント用>

DRV-R530<リア用>



オーディオルームの音場を、 ヘッドホンに。

あたかも目の前のスピーカーから聴こえるような立体感・臨場感のあるサウンドをヘッドホンで再現。*1

特別なオーディオルームの音場空間を好きな場所に持ち運ぶことで音楽の心地よさをもっと楽しめる新感覚の音場特性カスタムサービスです。

*1. EXOFIELD ON時



WIZMUSIC

WIZMUSIC 専用サイトにて
測定予約受付中!



www.wizmusic.jp

米国の業務用LTEスマートフォンシステム 事業会社との協業が進展

当社が事業を展開する業務用無線システム市場では、公共、民間市場ともに音声通信に加え、画像・映像の伝送も活用した新たなソリューションへの期待が高まっています。また、PoC*2 を可能とした業務用無線の市場が立ち上がりつつあることから、従来の業務用無線に留まらない様々なソリューションやサービスを提供する機会も広がっています。

こうした市場背景の中、当社は、米国の Sonim Technologies, Inc. (以下「Sonim 社」といいます。) との業務連携によって、堅牢な業務用スマートフォンを当社製品群に展開するほか、セキュリティ監視映像伝送や、現場スタッフの位置動態管理システム、顔認証のデータ解析などのサービス事業に取り組み、既存の顧客に加え、国内外の通信事業会社等からも評価いただける利便性の高いブロードバンドソリューションサービスを幅広く提供してまいります。

*2. Push-to-talk over Cellular の略称。携帯電話網を使用して業務用無線の一方同時通話を実現したサービス。



米国 Sonim 社との連携による IP 無線ソリューションイメージ

サステナブル（持続可能な）社会の実現に向けて

～当社のCSR*1への取り組み～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

企業には、自社の利益を追求するだけでなく、自社を取り巻く環境、社会などに与える影響への配慮や、「コーポレート・ガバナンス」に代表される会社の仕組みなどを重視した事業活動を行うことが期待されています。当社は、事業活動を通じ、社会との調和を図りながら、事業を持続的に成長・発展させることが重要であると考えており、その実現に向け、社会的課題の解決に貢献する商品やサービスを生み出すと同時に、お客さまだけでなく当社に関わる全てのステークホルダーと深く信頼関係を築きあげることが、必要不可欠であると考えています。

この考えに基づき、当社は、取り組むべき重点分野を明確化し、国連で採択された2030年に向けて世界が合意したSDGs*2の達成に貢献してまいります。同時に、地域に根差した社会貢献活動や次世代のための環境保全活動を強化してまいります。

*1. CSR (Corporate Social Responsibility) : 企業の社会的責任
*2. SDGs (Sustainable Development Goals) : 持続可能な開発目標



事業活動を通じた社会課題解決のための価値協創



社会性発達評価の早期実施を支援する診断補助装置
[Gazefinder (ゲイズファインダー)]

公式ページでは最新情報をお届けしています。



▶ 公式Facebookページ

JVCKENWOOD

製品情報



VICTOR ENTERTAINMENT

アーティスト情報



▶ 公式YouTubeページ

JVCKENWOOD

製品情報



VICTOR ENTERTAINMENT

アーティスト情報



株主名簿管理人および特別口座の管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-782-031 午前9時から午後5時まで(土・日・祝祭日を除く)
お問い合わせ先	株式会社JVCケンウッド 企業コミュニケーション部 広報・IRグループ 住所: 〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地 電話: 045-444-5232 (直通) Eメール: priir@jvckenwood.com ウェブサイト: http://www.jvckenwood.com (ウェブサイトはこちら)



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用しています。
また、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。